

Σ 委運営委員会幹事会議事録

日 時 昭和43年11月29日(金) 午前9時30分~午後2時20分
場 所 東海研(小食堂)
出席者 百田, 鈴木, 五十嵐, 桂木, 飯島, 中島, 西村 以上7名

1. 研究会について

昭和44年2月13, 14日の2日間, 中性子断面積の現状調査(仮称)というテーマで研究会を行なうことになった。

報告書の形式はJAERI-memo (非公開)とし, 参加者に限定配布する。

テーマ名は追つて適当なものを考える。

プログラムは12月2日実行委で更に検討し, 来週後半に招待状を発送する。予定としては30名位を招待する。

講演者には趣旨を徹底して, 準備を始めてもらう。

2. 来年度計画

来年度予算(局の査定)は1300万円, 大蔵内示は未定。

委員会の体制を考え直す時機である。サブグループの各論計画ではなく, 委員会全体として長期計画を考え, その中での来年度計画を考える。

○ 評価の分解でスペシャリストが育つて来ても良い頃である。

○ 核データ研の固有メンバーは事務的な仕事が多く, 評価の仕事に全力を注げないのが現状である。

○ 日本として特徴ある仕事をして行く場合, 人的余裕もないので国際協力を通してその一部を分担するという行き方が考えられる。

○ 核データ・グループとしては (n, r) , (n, n') 等の評価を始めている。体制を考える時, 評価を中心とするならば他のグループの人達にも参加を呼びかけるようにしたい。

○ この問題は拡大幹事会で再度検討する。

3. 旅 費

昨年度の135万から今年度は75万に減つた。このため委員会の活動が非常に制限された。

- 今年度の作業を進めるために30万程の追加を事務長に交渉してもらふことになつた。
- 計算費を振替えることはせず別枠で要求する。
- 研究会の費用のうち委員会メンバーの旅費は委員会で見なければならぬ。

4. 人事問題

- 来年度研究室に新卒1名が入る予定。但し大蔵内示が出て見なければ詳細は不明である。
- 中途採用については可能性しかなく、詳細は不明である。
- 委員会メンバーの中で所属機関が変つた人の委員会参加は本人の意志だけで決る、と考える。
- 神田氏、若林氏については事務手続きを取る(事務長)神田氏は囑託であるので、その継続についても調べる必要がある。

5. Numerical dataのサービス業務の件

- 事務長から業務を受ける時の規約案が提出、説明があつた。
- この業務案内の配布先はCINDAの配布先と同じにする。
- 委員会の作業の際にはこの規約の限りではない。
- コード利用規定は次回に回す。
- 大学

6. 文献活用の方法

- 入手文献類はJNDC ニュースにリストがある。
- 文献の分類と整理をして利用し易くすることが必要で、そのためには一覧表のようなものが欲しい。
- 文献類の所在をもつとP.R. する必要がある。

7. Progress Report

順調に作業は進み近日中に印刷が出来上る予定。

8. *Request Report*

CCDE にレンダフォームを送付した。リクエスターからのリクエストでレンダフォームに収録しなかつたものについては、JNDC からJAERI-memo の形でまとめて今後の参考資料にする。

9. 次回会合

- (1) 拡大幹事会は12月16日(月) 午後、東海研で行う。
- (2) 運営委員会は12月23日(月) 東京で行う。